

★ スターリ
ソの併合

二月は、ソ連科学アカデミーに招かれて約一週間モスクワに滞在したが、中国への関心が高いと云うだけに、大変忙しいスケジュールで、幾夜かをホリショイ劇場のバレエ(プリゼツカヤのアンナカレニナ)、クレムリン大宮殿のオペラ(イワン・スサニン)、コンセルヴァトワールの演奏会(ルーハのヴァイオリン、ギレリスのピアノ)などに興じたほかは、ついにユーリキー通りをぶらぶらと時間もなくした。

いささか閉口した私は、なんとなくロシアの世界から離れてみたかったこともあって、スケジュールの最後の二日間がフリーだったのを幸いに、エストニア共和国のタリンへ行った。往路はモスクワからアエロポートの小型機で二時間足らず、帰路は一晩の夜行列車であつた。

タリンは、バルト海に面したソ連邦エストニア共和国の首府で、天気がよければヘルシンキが海のかなたに望まれる近きにある。私にとってエストニア共和国についての知識は、リトアニア、ラトビアと並ぶバルト三



国の一つであること、スターリンが独断不侵条約の翌年、これらバルト三国を呑みこんで併合してしまつたこと、タリンは美しい古い町でソ連のなかではリニングラード以上に西欧化された小都市であること、らしいであった。

一環すると、そこに都会の尖塔や丸屋根、城壁、古い街並みが建て込みながらも、全体が調和的で屋根や壁の緑、茶、ベージュの色彩が美しい。町の中心にはドイツの商人に支配された二四一五世紀以来のハンザ同盟の商業都市の面影がそのままだ。路の店並みはアラハやタボールを思わせる。街行くひとと絡めていてモスクワやリニングラードと云えまうた異なつた

エストニアでの驚き



お雄 嶺 中 嶋

ア카데미の青年男女は、一ツヤなムードのこのホテルの特別室であつた。御馳走で歓迎してくれたが、フォンテの牛肉は明らかに美味だ。味だつた。レモネードもタリンはソ連です、と彼らは自慢する。

風景である。雪が残っている枯れた冬景色がまた実に魅力的で、なんでもない壁や小路がそのまま絵になつてゐる。

★ 資本主義の復活? 星

モスクワ より日本 星

★ 中国情報 星

★ 中国情報 星

★ 中国情報 星

★ 中国情報 星

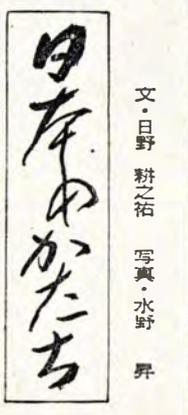


深光寺の谷荷菖

深光寺にあって、キリシタン灯籠も、キリシタン屋敷にゆかりのあつた人のものかもし

★ 周恩来遺書の波紋 星

★ 中国情報 星



文・日野 耕之祐 写真・水野 昇

東京都文京区茗荷谷の深光寺は、南総里見八犬伝の書